

家庭基礎

長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
必履修	2	4	6	筆記試験
教科書		学習書・副教材等		
大修館書店709 家庭基礎 Creative Living 「家庭基礎」で生活をつくろう		使用しない		
学習目標				
1、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境など生活を営むために必要な、基礎的な知識と技術を身につける。 2、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見つけ、解決する力を育てる。 3、人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てる。				
学習内容				
1.家族・家庭生活のマネジメント・・・家族の定義、家族構成の変化 2.子どもの生活と子育てのマネジメント・・・妊娠・出産と胎児の発育。乳幼児の成長発達。子どもの健康と安全。 3.高齢期のマネジメント・・・高齢者の心身の特徴。介護保険のしくみ。 4.共生社会をつくる・持続可能な社会をつくる・・・社会保障と地域福祉。持続可能な消費。SDGs。 5.経済生活のマネジメント・・・消費と契約。消費者信用と保護。消費者の権利と保護。 6.食生活のマネジメント・・・食事の役割。食生活を見直す。栄養素。 7.衣生活のマネジメント・・・被服の機能と快適性。被服の管理。 8.住生活のマネジメント・・・住まいの機能。住要求の特徴と住生活。				
授業の進め方、課題・提出物など				
ともに生きる社会を築くことを重視し、家庭や生活にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を身につけます。被服実習は希望者を募り実施。				
評価基準と評価方法				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及び単位認定試験の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 レポート4回を 60点～79点・・・2点 80点以上・・・3点 で評価。最高3点×4回＝12点 出席1回につき2点。 他、加点材料として規定回数以上の出席・実習等参加を含め最高点30点。最低点20点と評価。				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活を充実向上させるために必要な基礎的・基本的な知識を身につける。	家庭や地域の生活について課題を見出し、その解決のために思考を深め創造する能力を身につける。		家庭や地域の生活について関心を持ち、その向上を目指して、主体的・実践的に取り組む態度を持っている。	
担当者より				
家庭科は、生きていくヒントとなる科目です。知識を広め、技術を実践に移す楽しみを学習しましょう。				

家庭総合

長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
必履修	4	前期 4 後期 4	前期 6 後期 6	筆記試験
教科書		学習書・副教材等		
大修館書店 家庭総合705 Creative Living 「家庭総合」で生活をつくらう		使用しない		
学習目標				
1、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境など生活を営むために必要な、基礎的な知識と技術を身につける。 2、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見つけ、解決する力を身につける。 3、人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につける。				
学習内容				
1.生活のマネジメント・青年期の課題・・・ライフスタイルの選択。青年期の自立。 2.家族・家庭生活のマネジメント・・・家族の定義、家族構成の変化、家庭の法律。 3.子どもの生活と子育てのマネジメント・・・妊娠・出産と胎児の発育。乳幼児の成長発達。子どもの健康と安全。 4.高齢期のマネジメント・・・高齢者の心身の特徴。高齢者福祉、介護保険のしくみ。 5.共生社会をつくる・持続可能な社会をつくる・・・社会保障と地域福祉。持続可能な消費。SDGs。 6.経済生活のマネジメント・・・経済生活とリスク管理。消費と契約。消費者信用と保護。消費者の権利と保護。 7.食生活のマネジメント・・・食事の役割。食生活を見直す。栄養素。 8.衣生活のマネジメント・・・被服の機能と快適性。被服の管理。 9.住生活のマネジメント・・・住まいの機能。住要求の特徴と住生活。				
授業の進め方、課題・提出物など				
ともに生きる社会を築くことを重視し、家庭や生活にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を身につけます。被服実習は希望者を募り実施。				
評価基準と評価方法				
【単位認定の条件】 次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及び単位認定試験の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 レポート4回を 60点～79点・・・2点 80点以上・・・3点 で評価。最高3点×4回＝12点 出席1回につき2点。 他、加点材料として規定回数以上の出席・実習等参加を含め最高点30点。最低点20点と評価。				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活を充実向上させるために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見出し、その解決のために思考を深め創造する能力を身につけている。		家庭や地域の生活について関心を持ち、その向上を目指して、主体的・実践的に取り組む態度を持っている。	
担当者より				
家庭科は、生きていくヒントとなる科目です。知識を広め、技術を実践に移す楽しみを学習しましょう。				